

岡山×国際芸術祭プロジェクトが発足 「森の芸術祭 晴れの国・岡山」開催決定

2024年秋、国際的なアートディレクター・長谷川祐子が新たなアートトリップを岡山で実現する



2024年秋に、岡山県北部を中心とする地域において、国際芸術祭「森の芸術祭 晴れの国・岡山」を開催することが決定しました。

「森の芸術祭 晴れの国・岡山」は、12市町村（津山市、高梁市、新見市、真庭市、美作市、新庄村、鏡野町、勝央町、奈義町、西粟倉村、久米南町、美咲町）をエリアとするプロジェクトです。

このエリアは、山陽と山陰を分ける中国山地から吉備高原にかけて広がり、中国山地を水源とする三大河川（吉井川・旭川・高梁川）の上流域にあたります。緑豊かで雄大な自然、旧街道沿いの宿場町や城下町、水運の拠点として栄えた歴史ある街並み、優れた泉質の美作三湯（湯郷温泉・奥津温泉・湯原温泉）など、県南部の瀬戸内海沿岸とは異なる風景と魅力的な地域資源を数多く有しています。

新たな切り口で地域の魅力を引き出し非日常の特別な体験を提供するアート作品の展示や関連イベントの開催などを行うことで、芸術祭を核とした周遊型の観光振興や交流人口の拡大、シビックプライドの醸成を図ります。

このたび、岡山県、12市町村、JR西日本、経済団体、観光関係団体、文化関係団体など35団体からなる実行委員会を設立。キュレーターとして数々の国内外の先鋭的な美術展に携わり、日本の現代アートの海外発信や国際文化交流の推進に貢献してきた長谷川祐子（金沢21世紀美術館 館長）氏をアートディレクターにむかえることが決定しました。長谷川氏が国内で国際芸術祭のアートディレクションを行うのは本芸術祭が初となります。

芸術祭の実施に向けた取り組みの第一弾として、国内・海外のアーティストを招聘し、アーティストトークや芸術祭本番に向けたリサーチ活動を行う「アーティスト・イン・レジデンス」を11月から1ヶ月ほど実施する予定です。

■開催概要

開催時期：2024年秋
エリア：岡山県内の12市町村
(津山市、高梁市、新見市、真庭市、美作市、新庄村、
鏡野町、勝央町、奈義町、西粟倉村、久米南町、美咲町)
アート作品設置市町村：津山市、新見市、真庭市、鏡野町、奈義町
アートディレクター：長谷川 祐子
主催：「森の芸術祭 晴れの国・岡山」実行委員会
会長：伊原木 隆太(岡山県知事)
今後のスケジュール：2023年 開催計画発表
2024年秋 芸術祭開催

岡山県



■森の芸術祭とは

2024年秋、岡山県北部の地域において、国際芸術祭「森の芸術祭 晴れの国・岡山」が開催されます。

古代より大和と出雲を結ぶ出雲街道が東西に延び、近世には城下町・宿場町として栄えたこの地には、さまざまな伝統建築や工芸、芸能などのレガシーが残されています。大地や森からは果物や木材などの恵みがあり、その豊かさをサステナブルにするためのさまざまな試みがなされており、なかでも木質バイオマス発電などの森林資源を生かした取り組みはSDGsの先駆モデルとして評価されています。また蒜山高原をはじめ、美作三湯、鍾乳洞など、過度に観光地化されていない悠々とした時空間は、エコロジー思考における新しい可能性を秘めています。

森の芸術祭という名称は、温暖な気候、豊かな水や資源、食など、私たちが生きる上での大切な要素を満たしているこの地域の、自然の恵みや文化、人々が集まる場所としての多様性と豊かさを象徴する「森」からきています。

本芸術祭は、その「森」がもたらす「恵み」を芸術の力で未来に向けて活性化することを目的とし、「本当に必要な資本とは何か？」を問いかけます。美術館や記念館や学校などの文化施設、水やエネルギー、食の供給といった生活のインフラ、自然環境を共通の資本と考え、アーティストのみならず、建築家、科学者、民俗学者といった専門家も交え、地域の人々の協力を得ながら「新しい資本」をつくりあげていきます。

芸術は多様な考えを反映するとともに、これを人々に共感させ、新しい世界やものの見方に向けての想像力を養います。それは「驚き」「感動」「わくわく感」「ときめき」「生きていることの喜び」「深く感じ考えることの充足感」をもたらします。県北というひとつのエコロジーが芸術のエネルギーを得て、人々の心や感性をリフレッシュさせる「場」に変容します。晴れの国の森の住民たちの祝祭は、それを祝う祭となります。

アートディレクター 長谷川 祐子

アートディレクター：

長谷川 祐子（はせがわ ゆうこ）／PROFILE

金沢 21 世紀美術館 館長 / 東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科 教授

キュレーター／美術批評。京都大学法学部卒業。東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了。水戸芸術館、ホイットニー美術館客員キュレーター、世田谷美術館、金沢 21 世紀美術館、東京都現代美術館を経て、2021 年 4 月から現職（金沢 21 世紀美術館）。文化庁長官表彰(2020)。イスタンブール(2001)、上海(2002)、サン・パウロ(2010)、シャルジャ(UAE) (2013)、モスクワ(2017)、コラート(タイ) (2021) などでビエンナーレを企画。日本の現代美術、ジェンダーやエコロジーに関する著作として『キュレーション 知と感性を揺さぶる力』、『破壊しに、と彼女たちは言う：柔らかに境界を横断する女性アーティストたち』、『ジャパノラマ-1970 年以降の日本の現代アート』、『新しいエコロジーとアート-「まごつき期」としての人新世』など。



■ ロゴデザイン



デザインコンセプト

“岡山県北は「山陽と山陰を結ぶ、人や文化の交わる場所」“長谷川祐子

芸術祭のビジュアル・アイデンティティは、光と影の二面性から着想を得ています。そして、新鮮で現代的な色彩を用いた本ロゴのメッシュ状のデザインは、地元の工房で作られた繊細な草木染の織物から着想を得ており、デザインに明るさと透明感を生み出しています。また、県北の自然を撮影した写真と組み合わせることで、芸術祭と景観との共生を表現することができます。

ロゴデザイン：バーンブルック・スタジオ（イギリス）

バーンブルック・スタジオは、1990 年にジョナサン・バーンブルックによって設立されました。デザインは社会にポジティブな変化をもたらすことができると信じ、世界各地でさまざまな文化的、社会的プロジェクトに取り組んでいます。代表的な作品に、デヴィッド・ボウイのレコードジャケットがあり、彼の最後のアルバム「ブラックスター」では、グラミー賞を受賞しています。また、日本との関係も深く、東京の森美術館や六本木ヒルズのブランディングを手がけています。

<コメント>

岡山県北は、素晴らしい景観と古くからの歴史的伝統、そして現代の多様な祭りやパフォーマンス、芸術活動など、多くの特色に恵まれた地域です。リードデザイナーであるショーン・パーディは、「長谷川祐子と岡山県のチームと共に、岡山ならではの環境にふさわしい作品を作ることができたことを嬉しく思います。これらのデザインは、この地域の過去の美を受け入れ、その遺産を生き生きとした現代の文脈で祝うという芸術祭の目的を実証するアイデンティティを有しています」と語っています。

■アーティスト・イン・レジデンス

キックオフ事業として、国内、海外からアーティスト2名を招聘し、2022年11月から約1か月の間、県北部の地域に滞在しながら、地域との交流や芸術祭本番に向けたリサーチ活動を実施。期間中には、一般の方も参加可能な「アーティストトーク」も予定している。

- ・AKI INOMATA さんをお迎えし、アーティストトークを開催。

日 時 | 2022年11月5日(土) 13:30~15:00

場 所 | 奈義町現代美術館(岡山県勝田郡奈義町豊沢441)

出演者 | AKI INOMATA

岸本 和明(奈義町現代美術館 館長)

花房 香(S-HOUSE Museum 館長)

* 詳しくは公式ホームページの"NEWS"をご覧ください。



撮影: 朝岡英輔

AKI INOMATA/PROFILE

アーティスト、デジタルハリウッド大学大学院 特任准教授。

1983年生まれ。2008年東京藝術大学大学院 先端芸術表現専攻 修了。現在、東京を拠点に活動。生きものとの関わりから生まれるもの、あるいはその関係性について作品を通して提示。主な作品に、「やどかりに『やど』をわたしてみる」(2009-制作中)、「犬の毛を私がまとい、私の髪を犬がまとおう」(2014)などがある。主な展覧会に、十和田市現代美術館(個展、2019年、青森)、「Broken Nature」ニューヨーク近代美術館(グループ展、2021年、米国)などがある。また、ニューヨーク近代美術館、金沢21世紀美術館などに作品が収蔵されている。

- ・ジャコモ・ザガネッリさんをお迎えし、アーティストトーク「共同性のためのアーティスト——The artist for the collectivity」を開催。

日 時 | 2022年11月6日(日) 13:30~15:00

2022年11月27日(日) 13:30~15:00

場 所 | INN-SECT(岡山県津山市二階町29)

出演者 | ジャコモ・ザガネッリ

シルビア・ピアンティーニ

* 詳しくは公式ホームページの"NEWS"をご覧ください。



Giacomo Zaganelli(ジャコモ・ザガネッリ)/PROFILE

1983年、イタリア生まれ。

地域コミュニティを対象とした芸術文化プロジェクトのアーティスト、キュレーター、および活動家である。土地、環境、景観を通じて解釈される空間の概念の社会的及び公共的な側面を研究している。2010年には、空き地が提供する可能性について市民と行政の意識を高めるため、放棄された遺産をテーマにした先駆的な研究プロジェクト「La Mappa dell'Abbandono: 放棄の地図」を立ち上げた。近年の主な活動に、個展「Superficially」(2018、MOCA 台北)、「Grand Turismo」(2018・2019、フィレンツェ(ウフィツィ美術館))がある。また、瀬戸内国際芸術祭(2019年、日本)に招聘された。

- 「森の芸術祭 晴れの国・岡山」公式ホームページ

<https://forestartfest-okayama.jp/>

- 2022年10月31日記者会見動画(11月1日10時配信)

